

【ねらい】 2つの式で表される場面を、( ) を用いれば一つの式に表すことができること、また、その計算順序を理解することができる。

課題	140円のチーズバーガーと210円のサラダを1つずつ買って、500円玉を出しました。おつりはいくらになるでしょう。	この問題場面を式に表しましょう。	
		まず、言葉の式にしましょう。「出したお金－代金＝おつり」問題場面を言葉の式に当てはめて考え、おつりを求めましょう。	

既習事項	おつりを求めるのだから、ひき算だ。買った順に引けばいい。	チーズバーガーと、サラダを一緒に買った場面だな。	代金は、140+210で350になる。たし算も使うんだな。おつりは150円だ。
------	------------------------------	--------------------------	---

自力解決	A	① $500 - 140 = 360$ ② $360 - 210 = 150$	答え 150円
	B	① $500 - 140 - 210 = 150$	答え 150円
	C	① $140 + 210 = 350$ ② $500 - 350 = 150$	答え 150円

指導上の留意点

- 計算の順序を番号で書くことで考えを整理させる。そこで、最初にする計算を①、次にする計算を②、そしてまとめる計算を③のように番号で考え方や説明の仕方の筋道を立てさせる。
- 自分の考えを説明する力を育む。式を立てた児童には、考えを説明する機会を大事にしたい。まずは、座ったままで説明を3回練習させる。次に、立って、同じく練習を終えた児童と説明し合う機会を設定する。
- 二つの式で表したAとCは児童の自然な考えに沿った式である。児童にとっては二段階で考えることが容易である。しかし、本時は一つの式にまとめる力を育てていきたい。そこで集団思考の段階で、まず、Aの考えを一つの式にまとめたものがBであることに気付かせる。そして、Cが代金を一まとめにしているよさを説明し、( ) を使えば一つの式にすることができる素晴らしさを指導していく。また、色チョークで言葉の式と重ねさせたり、買い物かごで( ) を捉えさせたりして理解を確かかにしていく。
- 適用問題に複数取り組ませ習熟を図る。2問の適用問題に取り組みさせる。一問ずつ確認して評価と指導を行う。

**1 考えた式の意味を説明する。**

A		まず、出したお金からチーズバーガーの代金を引くと360円です。次に、サラダの代金をひくとおつりが150円になります。
B		出したお金から、代金を順番にひきました。おつりは、150円です。
C		まず、代金を求めました。次に、出したお金から代金をひきました。おつりは150円です。

**2 Cくんの式も( ) を使えば、一つの式に表すことができることを指導する。**

みなさんよくできました。Aさんの式を一つの式にまとめたのが、Bさんの式ですね。実は、Cくんの式も一つの式にできます。その方法を教えます。
 

実は、( ) を使うと、ひとまとまりとして考えることが表せるのです。( ) の記号は、ひとまとまりに見て、先に計算するしるしです。

買った品物を、一つにまとめる買い物かごが( ) です。

	$500 - (140 + 210) = 150$ になるのか。( ) を使うとまとまりとして考えることができる。
--	---

**( ) でひとまとまりに捉えて式にする問題に取り組む。**

①  $1000 - (420 + 230 + 120)$  の式になる、問題を考えよう。

② 550円のマグロの刺身を買ったら、50円まけてくれました。1000円を出すとおつりはいくらになりますか。